

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1	<p>2015年8月下旬から9月上旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2015年5月下旬から6月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。なお、政府の景気認識については月例経済報告の中でお示ししているのをご参照ください。</p>		<p>良くなっている面と悪くなっている面がある。輸出減少や消費者マインドの持ち直しの動きが緩やかである、などにより、4-6月期のGDPはマイナスである。ただし、4-6月期の企業業績は特に大企業を中心にではあるが、総じて堅調であったことが確認された。足元では米国金融政策と中国景気の下振れ懸念が大きく台頭し、株安・円高に転じたこともあり、不安心理が出てくる可能性はある。もとより、ファンダメンタルズ対比で株が高くなりすぎ、クレジットも改善し過ぎたところがあり、いささかバブル気味の様相に投資家の懸念があったことが今回の金融市場での急激な動きを形成したことは見ておきたい。金融市場の混乱が実体経済にネガティブな影響をもたらさないかには注視が必要だろう。</p>
デフレ脱却・経済再生を確実にするための取組			
2-1	<p>(別紙5)の1.(1)のとおり、経済財政諮問会議ではデフレからの脱却、経済の好循環の拡大に向けた取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入ください。</p>	-	<p>一つには企業業績が確実にあがっていくことをサポートすることではないか。財源が確保できれば法人税減税は更に国際競争力がある程度まで下げてもよい。設備投資に対する減税メリットもよいと思う。エネルギー価格の下落のためには、少しずつ始まった原子力発電の稼働を更に行う必要がある。また、一方で、こうしたサポートは可能だが、競争力を阻害するような誘導は慎むことが必要だ。たとえば、産業空洞化を防ぐために国内工場建設を無理に促進したりするようなことは避けたい。</p>
2-2	<p>また、(別紙5)の1.(2)のとおり、経済財政諮問会議では我が国経済の潜在的な成長力の強化について取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入をお願いいたします。</p>	-	<p>最近のホットイシューではないが、日本の株・社債市場が更に流動性を増し、魅力的なものにするために、海外投資家にとって投資妙味の高い市場を作っていく必要があるのではないかと。そのほか、メザニンファンドなど日本の機関投資家が投資できるような市場の育成も考えたい。同ファンドが育てば、ローン市場が拡大することが期待できる。そのためには、ディスクロの徹底とディスクロージャー方法の整備や投資ガイドラインを無暗に厳しくするだけにしていないことなど制度設計を投資家フレンドリーにすることが一案となるのではないかと。お金を外から呼びこみ、かつ、日本国内に偏在しているだけの資金を循環させること、日本にハイイールド市場を作る気持ちで取り組みないか、考えてみることを提案したい。</p>